

## 館ヶ曾根山城

所在地 新鶴村大字沼田字館ヶ曾根乙八七八  
所有者 五十嵐左衛門氏

会津地方の城は、鎌倉初期の頃より築かれたと言われている。当時の城は、近世の城のように石垣を積み、堀をめぐらすものではなく、自然の險阻な地形を利用して築き、戦いの時の本陣として防戦に利用したにすぎない。

入田沢館ヶ曾根の山城は、部落の西方四百メートル程の地点に、西は柳津街道（田沢川）と、南は月ノ沢川の三洲に聳える標高約四〇〇メートル程の曾根山にある。頂上には五アール程の平地があり、その廻り一段下がっては内郭、更に一〇メートル程下には外郭が作られている。また曾根伝いに西に一〇〇メートル程の地点には堀切があり、曾根を深く掘り下げ、敵の侵入を防いでいる。

会津の資料には、この山麓の平地に岩松山仏隆寺があったとあるが、山城については記述がない。

## 新鶴村の山城と柵

館ヶ曾根山城（入田沢）

築城年代等不明

龍ヶ嶽城（大谷地）

安土桃山時代

須田大炊守住む

梁田柵

室町時代 藤倉長九郎住む

根岸柵

構築年代等不明



館ヶ曾根山城遠望



館ヶ曾根山城本丸付近